

高等学校地理歴史科(日本史A)の近代史の授業開発 —原敬内閣の外交と政治—

山名 敏弘

本研究を行った2018(平成30)年からさかのぼること100年前の1918(大正7)年、原敬内閣が成立した。原敬内閣は、米騒動により倒壊した寺内内閣の後に日本初の本格的政党内閣として誕生した。大正時代は、多くの内閣が2年以内に終わりを迎える一方で、原敬内閣は3年以上存続した。本授業開発は、原敬内閣はなぜ3年以上も政権を維持することができたのかということを解明することをねらいとするものである。

1. はじめに

第一次世界大戦末期の1918年、原敬内閣の前の内閣である寺内内閣の時に日本はアメリカ・イギリス・フランスとともにシベリア出兵を行い、その後日本は1922年まで出兵を続けることになる。また、シベリア出兵は、国内の米騒動の誘因ともなり、米騒動によって寺内内閣が倒壊することにもなった。第一次世界大戦終結後は、ヴェルサイユ条約によって新たな国際秩序が形成され、国際連盟の設立など平和の実現に向けた国際的協調外交が展開されていった。日本国内では大正デモクラシーの風潮が高まり、普通選挙を求める運動などの社会運動が盛んになる一方で2年以内に終わりを迎える内閣が多かった。このような中で日本最初の本格的政党内閣として誕生した原敬内閣は、外交において協調外交を進めて国際社会の動きに同調するとともに、国内政治においては教育の振興や産業の奨励などの積極政策を展開した。本授業開発は、大正期には2年以内で終わりを迎える内閣が多かったにもかかわらず、なぜ原敬内閣が3年以上政権を維持することができたのかということを解明するものである。

2. 原敬内閣の外交と政治

原敬は岩手県盛岡市の生まれで、外務省の官僚や新聞社の社長を務め、後に政界に入りやがて立憲政友会の総裁となり内閣総理大臣になった人物である。また、原敬は生涯にわたり決して爵位を受けなかったことから「平民宰相」とよばれた。なお、原敬は自らの死の9か月前にしたためた遺書の冒頭に、「位階・勲等は一切受けないこと」と記している。

1918年に起こった米騒動は、シベリア出兵を見越した米の投機的買い占めなどにより米価が高騰したことによって起こった。寺内内閣はこの米騒動によって倒壊した。寺内内閣の後には、原敬内閣が成立した。原敬内閣は、衆議院の第一党の立憲政友会の総裁である原敬を首班とし、陸軍・海軍・外務大臣以外は立憲政友会の政党员と

いう日本最初の本格的政党内閣であった。また、大正期には2年以内で終わりを迎える内閣が多かったにもかかわらず原内閣は3年以上政権を担当した。

原内閣は、シベリア出兵については兵力の減員を行おうとした。また、原内閣は第一次世界大戦の講和条約であるヴェルサイユ条約に調印するとともに、戦後に国際社会において平和の実現への機運が高まっていく中で、国際連盟に加盟するなど協調外交を展開して国際社会の動きに同調した。

原内閣は、国内政治に関しては積極政策を掲げ、①教育の振興②産業の奨励③交通・通信の整備④国防の充実の推進を図った。原内閣は、1918年に大学令・改正高等学校令を公布して高等教育の充実を図ったり、1919年に衆議院議員選挙法を改正し、有権者の納税資格を3円以上に引き下げ、選挙区を小選挙区制に変更するなど施策を展開していった。こうした中で、1920年野党の憲政会などが普通選挙法案を衆議院に提出し、各地で普通選挙を求める運動が高まった。このような動きに対して原内閣は、普通選挙は時期尚早との考えから衆議院を解散し、総選挙において与党立憲政友会は積極政策を掲げて臨み、選挙で圧勝した。原内閣は選挙後に鉄道院を鉄道省に昇格させて鉄道の整備・拡充を図るなど政策を遂行していった。原敬は、1921年に東京駅で暗殺され原内閣は終わりを迎えるが、原内閣は、国際社会において協調外交を進展させるとともに、国内では積極政策を展開することによって、大正時代としては異例の3年以上存続する内閣となったのである。

3. 単元と評価規準

(1) 単元名 第一次世界大戦と日本

(2) 単元のねらい

第一次世界大戦はなぜ起こったのか、大戦は国際社会や日本の社会・経済にどのような影響を及ぼしたのか、また政党政治がどのように誕生し発展したのかという諸課題を探究し理解を深めることをねらいとする。

(3) 単元計画 (全8時)

- ①大正政変(1時間)
- ②第一次世界大戦と日本の中国進出(1時間)
- ③大戦景気と政党内閣の成立(1時間)
- ④原敬内閣の外交と政治…本時(1時間)
- ⑤ワシントン体制(1時間)
- ⑥社会運動の勃興と普選運動(1時間)
- ⑦護憲三派内閣の成立(1時間)
- ⑧市民文化(1時間)

(4) 単元の評価規準

○関心・意欲・態度

第一次世界大戦前後の世界や日本の動向と変容について関心をもち、意欲的に学習に取り組んでいる。

○思考・判断・表現

第一次世界大戦前後の世界や日本の動向と変容について、多角的に考察し的確に表現することができる。

○技能

第一次世界大戦前後の世界や日本の動向と変容について、資料を効果的に活用して追究することができる。

○知識・理解

第一次世界大戦前後の世界や日本の動向と変容について理解している。

4. 本時の主題とねらい

(1) 本時の主題 原敬内閣の外交と政治

(2) 本時のねらい

1918(大正7)年の米騒動後、日本初の本格的政党内閣として原敬内閣が成立した。一方、原敬内閣は普通選挙運動が高まっていた当時、普通選挙の導入には消極的であった。本時では、このような状況において原敬内閣がなぜ3年以上政権を維持し続けることができたのかということを知り、その理由を説明し、その意義を考察することをねらいとする。

(3) 本時の目標

◎原敬内閣は、国際社会において協調外交を進展させるとともに、国内では教育・産業の振興などの積極政策を展開したことによって、3年以上政権を維持し続けることができたことを理解させる。

○原敬内閣は、第一次世界大戦後の国際社会において、ヴェルサイユ条約の調印や国際連盟への加盟など協調外交を進展させたことを理解させる。

○原敬内閣は、教育・産業の振興などの積極政策を展開したことによって、3年以上政権を維持し続けることができたことを理解させる。

資料

- 資料 1 : 原敬の写真(伊藤之雄『原敬 外交と政治の理想 下』講談社選書メチエ所収)
- 資料 2 : 原内閣の閣僚(伊藤之雄『原敬 外交と政治の理想 下』講談社選書メチエ所収)
- 資料 3 : 内閣表(『改訂版 日本史A』(山川出版社)所収)
- 資料 4 : 貿易額の推移(『図説 日本史通覧』(帝国書院)所収)
- 資料 5 : 第一次世界大戦とその後の物価指数(『図説 日本史通覧』(帝国書院)所収)
- 資料 6 : 国会前で普選要求をする人々(『図説 日本史通覧』(帝国書院)所収)
- 資料 7 : 選挙結果の動向(『改訂版 日本史A』(山川出版社)所収)
- 資料 8 : 在学者数と学校数の推移(『日本の近代4 「国際化」の中の帝国日本 1905～1924』(中央公論新社)所収)

6. おわりに

大正年間、大正デモクラシーとよばれる民主主義的風潮が高まり普通選挙を求める運動も盛り上がりを見せていた。そのような中で大正年間には、2年以内に終わりを迎える内閣が多い。本授業開発は、原敬内閣がなぜ3年以上も続いたのかという要因を当時の国際状況やそれに対処した原敬内閣の外交や国内状況に対応した原敬内閣の政治を通して資料を用いながら解明しようとしたものである。また、本授業開発は今年度の当校の教育研究会で行った5年生(高校2年生)を対象とした授業に加筆したものである。研究会にご参加いただいた先生方から貴重なご意見やご示唆をいただいたことに深く謝意を表します。それらのご意見やご示唆を活かしながら今後さらに授業開発に精進していきたい。